

川上ダム通信

2012

3

月号



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

東日本大震災から1年 ～霞ヶ浦湖岸堤復旧工事の近況報告～

東日本大震災の発生から、もうすぐ1年が経とうとしています。被災された皆様に今一度お見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を心からお祈りいたします。

本誌11月号でもご紹介したとおり、水資源機構が管理している霞ヶ浦（茨城県）の湖岸堤防のうち被災した堤防の総延長は約19キロにも及んでいます。機構ではこれらの堤防の復旧に努めていますが、大地震によって地盤が大きく沈下・移動したことから、工事の基本となる標高や位置（座標）といった基準点を、高精度の測量機器を用いて測ることから取りかかっています。

また、被害の状況も場所によって様々に異なるため、ひび割れの深さなどを詳細に確認しながら復旧を行っています。

ところで、道路、河川などのインフラにはコンクリートなどの資材が欠かせません。復旧に向けた土木工事が各地で一斉に始まったため、復旧に必要なコンクリート製品の需要が集中し、この復旧工事でも堤防に張るためのコンクリートブロックの納入時期に影響が出ることが懸念されています。さらに、工事を行う作業員、交通誘導員、工事に使用する重



霞ヶ浦（茨城県）周辺



工事の基本となる基準点を測る

機械類も東日本の各地で需要が集中していることから、工事のスケジュールを組み立てることに苦慮しています。

しかし、出水期を迎える今年の梅雨シーズンまでにできる限り堤防を復旧させ、地域のみなさまの安全を確保することができるよう、着実に調査・設計・工事を進めています。

【川上ダムから応援派遣中 砂野洋一・金山明広】



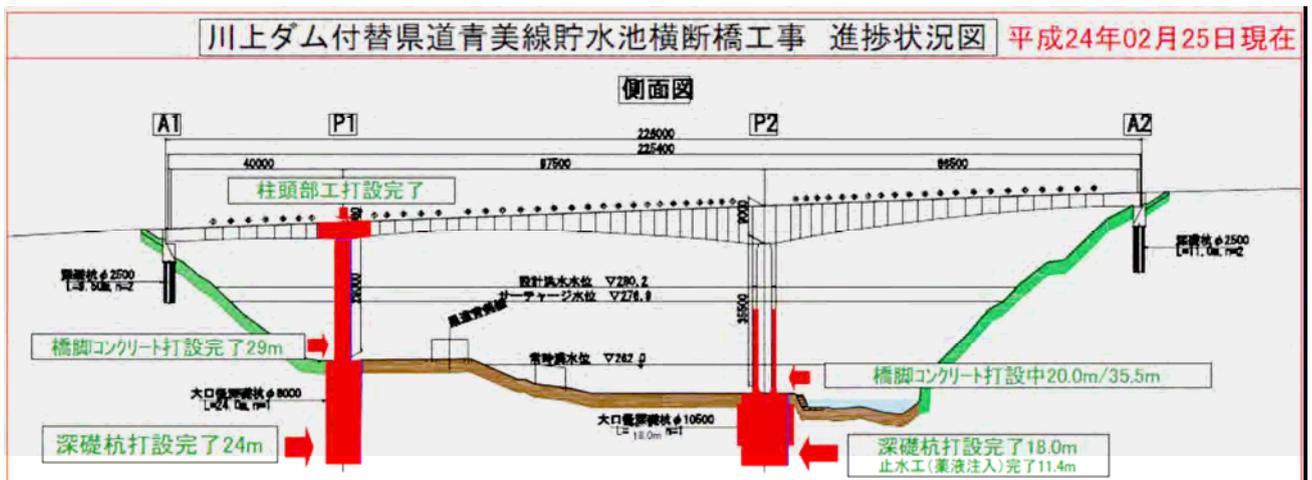
地震によるひび割れの深さを確認しながらの作業

もうすぐ「やじろべえ」が登場します！

工事報告

付替県道青美線トンネル工事の青山羽根側の地山掘削作業は、1月下旬に終了しました。この掘削終了により、トンネル工事始点付近から橋梁工事の全容が見渡せるようになりました。そして、道路線形もイメージできるようになりました。

下図は、付替県道青美線貯水池横断橋工事の進捗状況図です。赤のハッチングが完了箇所です。P1橋脚は柱頭工を終え、これから上部工の張出し施工に取りかかります。上部工の施工が進みますと、道路の線形がより明らかになります。



カンチレバー工法

貯水池横断橋工事では、上部工の張出し施工でカンチレバー工法を採用します。カンチレバー工法とは、下のイメージ写真のように、橋脚を挟んでやじろべえが両手を伸ばしていくように、バランスをとりながら上部工を施工していく工法です。このカンチレバー工法は、深い谷、流量の多い渓谷、河川、海上、交通量の多い街路上等での架設に適しています。貯水池横断橋工事では、まだ両手を伸ばす張出し工法の段階には達していませんが、これから伸びてくるやじろべえの両手にご期待ください。



付替県道青美線第2工区(その5)工事

平成23年4月より工事を開始した付替県道青美線第2工区(その5)工事は、平成24年2月13日に完成検査を行い工事が完了しました。

工事期間中のご協力、誠にありがとうございました。

【工事課 森岡浩然】



完成状況

労働安全の専門家と合同パトロールを実施しました

工事現場では安全が第一であり、労働災害は決して発生させてはなりません。このため川上ダム建設所では、建設所職員と受注者による工事現場の安全パトロールを毎月実施しています。今年の1月25日の安全パトロールでは、伊賀労働基準監督署（以下「労基署」という。）から署長及び産業安全専門官をお招きし、合同で安全パトロールを実施しました。

労基署の方々には、労働安全衛生の専門家ならではの厳しい目で、工事現場を隅々までチェックしていただきました。パトロール後の講評では、改善点をご指導いただき、より一層の安全向上につながるとても有意義な機会となりました。今後も、川上ダム建設所では工事現場の安全に常に目を配り、安全第一、無事故・無災害で事業を進めてまいります。

【総務課 鶴牧美鈴】



労基署の方々（左2人）による厳しいチェック



労基署の方々による講評

環境保全への取り組みについて定期審査を受けました

平成24年2月1日、川上ダム建設所では、平成19年度より認証取得しているISO14001の今年度活動内容について、審査機関である財団法人日本品質保証機構による定期審査を受けました。当建設所では、ISO14001における環境目的・目標として、浄化処理水の有効利用（浄化槽処理水を樹木の育苗用に散水）、不法投棄の防止、電気使用量及びゴミ排出の削減等、10項目を平成23年度当初に設け、環境負荷の低減及び良好な環境の保全に努めてきました。

定期審査では、これらの目標に対して今年度どれだけ達成することができたかという運用状況の審査を受けました。その結果、審査員の方からは、全ての目標に対して不適合もなく、概ね達成できているとの評価をいただくことができました。

【第二用地課 松高遵】



審査の様子（左が審査員の方）



不法投棄監視パトロールの状況

業務改善勉強会に参加しました

水資源機構では、効率的な仕事の仕組みづくりによるコスト削減、職員の能力・問題意識の向上及び職場環境の改善を目的として、平成20年度より「業務改善チャレンジ」と称して業務改善に取り組んでいます。この一環として、利水者である自治体の業務改善への取り組みについての勉強会を実施しており、去る1月27日に、一庫（ひとくら）ダム管理所において、川西市総合政策部政策推進室政策課の担当者を講師にお招きし、兵庫県川西市における業務改善の取り組みについての勉強会を開催しました。この勉強会には、川上ダム建設所の職員5名を含む34名の関西支社管内の職員が参加しました。

講師からは、川西市の業務改善の取り組みであるTK（チーム改善）活動についてご紹介いただきました。このTK活動は、課単位で、業務上の問題点や改善すべき点を抽出、及び改善案の立案・

実施を、全員参加で、しかも楽しみながら行うというものです。この取り組みにより、職員のモチベーションの向上や組織風土が改善し、行政サービスの向上、業務の効率化につながったとの事でした。

勉強会の最後に、講師から「ほめる文化を育むことが大切である。」というお話がありました。私自身日々業務をする中で、「挨拶をする」、「お礼を言う」、「ねぎらいの言葉をかける」ということを意識しています。今回の勉強会に参加して、更に「ほめる」も実践していきたいと思います。



兵庫県川西市の取り組みを勉強

【工事課 溝尾邦男】

イベントのお知らせ

第26回名張青蓮寺湖駅伝競走大会

2月26日（日）、毎年恒例の青蓮寺湖駅伝大会が名張市で開催されました！

同大会は、男子の部（20.24km、6区間）と女子の部、男女混成の部（ともに13.6km、5区間）の3種目で構成されており、今大会には、総勢79チームが参加しました。

川上ダム建設所からも、所長の神矢を筆頭に、3度の飯よりマラソンが好きな職員を5名集め、「チーム川上」として男子の部に出場しました！

また、川上ダム建設所だけでなく、名張市の木津川ダム総合管理所から4チーム（男子の部）、関西支社から2チーム（男子の部及び男女混成の部）も出場しました！！

激闘の末、チーム川上は、男子の部に出場した41チーム中38位（タイム：1時間41分23秒）という結果となりました。

この駅伝大会の様様については、来月号で詳しく紹介する予定です☆

編集後記

春の訪れをほのかに感じる一方で、依然として厳しい寒さが続いており、毎朝ふとんから出るのがとても辛い今日この頃です。

さて、左記のイベントのお知らせでも紹介しておりますとおり、我々川上ダム職員も、去年に引き続き青蓮寺湖駅伝に参加しました。寒い中、沿道で声援を送ってくれた皆様に感謝申し上げます。

【広報誌発行事務局】

編集長 神矢（所長）
デスク 大友（総務課長）
" 足達（工務課長）
記者 堀（総務課）
松高（第二用地課）
森岡（工事課）



ISO14001: 2004
JQA-EM576m

☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。
ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆
◇川上ダム建設所はISO14001を取得し、環境保全を推進しています。◇